

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	伝統芸能	種目	演芸
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	無	応募総企画数	
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※			

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	イッパンシャダンホウジンマンザイキョウカイ		
	制作団体名	一般社団法人漫才協会		
	代表者職・氏名	会長 塙 宣之		団体ウェブサイトURL
				https://www.manzaikyokai.org/
	制作団体所在地	〒 111-0034	最寄駅(バス停)	浅草駅
		東京都台東区雷門2-11-9 木具定ビル4階		
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input checked="" type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな			
	公演団体名			
	代表者職・氏名			団体ウェブサイトURL
	公演団体所在地	〒	最寄駅(バス停)	
	制作団体 設立年月	平成17年5月		
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
		会長 塙宣之 副会長 宮田陽・三浦昌朗 常務理事 土屋伸之・山口弘和 専務理事 青空好児	[団体構成員] 会員人数:251名 コンビ数:129組 [加入条件] 理事会にて過半数以上の賛成で決議	
	事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名	金井 理香
	経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	根津 竹美
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス	電話番号	
		biz@manzaikyokai.org	0358285030	

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	<p>昭和30年 漫才研究会を結成。初代会長にリーガル万吉就任。今日の漫才協会の基礎となる。</p> <p>昭和31年 2代目会長に都上英二就任。</p> <p>昭和39年 3代目会長にコロムビアトップ就任。漫才協団と改称</p> <p>平成元年 4代目会長にリーガル天才就任。</p> <p>平成10年 5代目会長に内海桂子就任。</p> <p>平成17年 文部科学省から許可を受け社団法人漫才協会に改称</p> <p>平成19年 6代目会長に青空球児就任。</p> <p>令和5年 7代目会長に塙宣之就任。</p> <p>平成15年 漫才新人大賞(ナイツ)</p> <p>平成20年 お笑いホープ大賞・NHK新人演技大賞 演技部門大賞(ナイツ)</p> <p>平成25年 文化庁芸術祭 大衆芸能部門 優秀賞(ナイツ)</p> <p>平成28年 芸術選奨 大衆芸能部門 文部科学大臣新人賞(ナイツ)</p> <p>平成28年 浅草芸能大賞 奨励賞(ナイツ)</p> <p>令和3年 M-1グランプリ 優勝(錦鯉)</p> <p>令和4年 浅草芸能大賞 大賞(ナイツ)</p> <p>令和5年芸術選奨 大衆芸能部門 文部科学大臣新人賞(ねづっち)</p>
	学校等における公演実績	<p>平成30年1月 上野精養軒にて小学生向け環境・ごみ減量・リサイクル講演会(出演:宮田陽・昇)</p> <p>令和5年11月 日本財団 海と日本プロジェクト 品川区立日野学園および江戸川区立松江第二中学校にて公演(出演:宮田陽・昇、三拍子)</p> <p>令和6年1月 静岡県磐田市向陽中学校(出演:おせつときょうた、さくらだモンスター)</p>
	特別支援学校等における公演実績	<p>令和4年2月 群馬県館林特別支援学校にて公演(出演:金谷ヒデユキ、芸人THEブラスト、はまこ・テラコ)</p> <p>令和4年7月 神奈川県えびな支援学校にて公演(出演:金谷ヒデユキ、芸人THEブラスト、キラーコンテンツ)</p> <p>令和5年1月 神奈川県上菅田支援学校にて公演(出演:金谷ヒデユキ、芸人THEブラスト、はまこ・テラコ)</p> <p>令和5年2月 神奈川県横浜市立日野中央高等特別支援学校にて公演(出演:金谷ヒデユキ、芸人THEブラスト、キラーコンテンツ)</p> <p>令和5年9月 新潟県南魚沼支援学校にて公演(出演:芸人THEブラスト)</p>

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	無	
	※公開資料有の場合URL		
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	
		PW:	

別添	なし
----	----

【公演団体名 一般社団法人漫才協会 】

本公演・ワークショップの内容	対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
		小学生(高学年)	○	中学生	-
	企画名	漫才をやってみよう！～おしゃべりで育む聞く力・話す力～			
	企画のねらい	本企画は、小学生を対象に、漫才を通じて「聞く力」と「話す力」を育み、コミュニケーション能力と表現力を高めることを目的とします。漫才は相手の言葉を受け止めて返す芸能であり、その体験は子どもたちに集中力や応答力を自然に身につかせます。さらに、声に出して演じることで自信が育まれ、友達と笑い合うことで心身の健康も促されます。プロによる実演と子どもたち自身の発表を組み合わせることで、「漫才って楽しい」という実感を得ながら学びとつなげる場を提供します。			
	演目概要・演目選択理由	本公演では、プロの漫才師3組による実演(合計45分程度)と、ワークショップで練習した児童3～4組による発表(20～25分)を組み合わせ、全体で約80分のプログラムを構成します。プロの漫才は、日常生活や学校生活を題材にした親しみやすい内容とし、低学年から高学年まで幅広く楽しめるよう工夫します。明快なボケとツッコミ、身体表現を交えたテンポのよい舞台で、子どもたちが安心して笑える環境を作ります。 漫才は日本の話芸文化のひとつであり、相手の話を聞いて受け答えすることを基本としています。子どもたちがこの芸能を鑑賞し、さらに自ら演じる体験を通じて「聞く力」「話す力」の大切さを実感できることが、本企画を選定した理由です。鑑賞と体験を結びつけることで、学びが一過性に終わらず、子どもたちの成長につながる場を提供します。			
	児童・生徒の参加または体験の形態	ワークショップでは、児童全員が2人1組となり、オリジナルの短い台本を使って掛け合いを体験します。その中から代表として3～4組(6～8人程度)が選ばれ、プロのツッコミを受けながら実演に挑戦します。さらに本公演では、ワークショップで練習した代表児童が舞台上で登壇し発表を行い、プロの漫才師による公演と組み合わせることで、鑑賞と体験を一体的に味わえる構成とします。			
	児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	3～4組(6～8人)	
			鑑賞人数目安	上限なし	
	本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	本公演は、プロの漫才師3組による実演(合計45分)と、児童3～4組による発表(20～25分)を組み合わせ、全体で約80分(休憩を含む)のプログラムとして構成します。前半にプロ2組の公演、休憩を挟み、後半に児童の発表とプロ1組の公演を配置します。子どもたちの発表をプロの実演と並行して位置づけることで、学びと鑑賞を結びつけながら進行します。学校の学年構成等に応じ、プロの演目を前半にまとめて実施する方式も選択可能とします。			
		公演時間	80	分	
出演者	本公演およびワークショップは、1組～2組の漫才師(計2名～4名)が担当します。 うち1組は団体理事であるベテラン漫才師が出演し、安定した演技と指導力を活かして進行します。残る1組は、スタッフを兼任しながら児童のサポートにあたります。 ロケット団(三浦昌朗・倉本剛) 宮田陽・昇(宮田陽・宮田昇) 他、若手漫才師				
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	・ロケット団: 1998年結成。2002年 第1回漫才新人大賞 大賞受賞、2006年 第23回浅草芸能大賞 新人賞受賞、第61回文化庁芸術祭 新人賞受賞、国立演芸場 花形演芸大賞 銀賞。 ・宮田陽・昇: 平成11年8月 漫才コンビ結成。平成13年5月 宮田章司一門に入門。平成16年7月 漫才協会主催・第3回漫才新人大賞・優秀賞、平成17年5月 漫才協会主催・第4回漫才新人大賞・大賞、平成24年1月 平成23年度(第66回)文化庁芸術祭賞大衆芸能部門・新人賞、平成29年3月 国立演芸場主催・平成28年度花形演芸大賞・銀賞。				
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む	出演者:	6	名	運搬	積載量: t
	スタッフ:	1	名		車 長: m
	合 計:	7	名		台 数: 台

<p>本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュール) の目安</p>	前日仕込		無		前日仕込所要時間			時間程度
	到着	仕込		上演	内休憩	撤去	退出	
				80	10			
	※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。							
<p>本公演 実施可能日数 目安</p> <p>※実施可能時期につ いては、採択決定後 に再度確認します(大 幅な変更は認められ ません)。</p>	6月		7月		8月		9月	
	10日		10日		0日		10日	
	10月		11月		12月		1月	
	10日		10日		0日		0日	
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計		50日	
<p>公演に係るビジュ アルイメージ (舞台の規模や演出 がわかる写真)</p> <p>※会場条件につ いて最低限必要 な条件がある場 合には、様式 No.4内「会場簡</p>								
<p>著作権、上演権等 の許諾状況</p>	各種上演権、使用権等の許諾手続の要 否			該当なし		該当コンテンツ名		
	該当事項がある 場合	権利者名			許諾確認状況			

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名

一般社団法人漫才協会

】

ワークショップの内容	ワークショップのねらい	本ワークショップでは、漫才を通じて子どもたちが実際に掛け合いを体験することで、「聞く力」と「話す力」を養います。2人1組で台本を読み合わせたり、プロのツッコミを受けたりする中で、相手の言葉に耳を傾け、自分の言葉で返す姿勢が自然に育ちます。 また、全員が声に出して挑戦できる内容とし、代表児童による舞台発表を通じて表現力と集中力を高めます。笑いを共有する体験は、子どもたちに前向きな気持ちをもたらし、日常生活や学級活動に活かせるコミュニケーションの基盤づくりにつながります。		
	児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	20～120人
	ワークショップ実施形態及び内容	<p>約90分</p> <p>あいさつ・導入(10分) 講師による挨拶後、漫才の歴史や特徴をわかりやすく紹介します。</p> <p>プロによる実演例(10分) 短い掛け合いを実演し、子どもたちに漫才のイメージを持たせます。</p> <p>台本を使った体験(30分) 事前に制作したオリジナルの短い台本を配布し、児童は2人1組で声に出して掛け合いを練習します。</p> <p>休憩(10分)</p> <p>ボケ役体験(20分) 希望する児童3～4人がボケ役に挑戦し、講師がツッコミ役を担当します。プロとの掛け合いを直接体験します。</p> <p>まとめ・質疑応答(10分) ネタの作り方の基本を解説し、子どもたちからの質問に答えながら全体を振り返って終了します。</p>		
	その他ワークショップに関する特記事項等	<p>ワークショップは1回につき20人程度から最大120人程度を対象とし、全員が2人1組で協力しながら体験できます。その上で代表児童3～4組(6～8人)が発表に挑戦します。対象学年に応じて内容を調整することができ、低学年には読み合わせを中心に、高学年にはネタづくりの工夫を取り入れるなど、発達段階に応じて柔軟に対応します。</p> <p>学校規模に応じて、学年単位での実施や複数回の分割実施も可能です。本公演と連動し、ワークショップでの成果を舞台での発表につなげることができます。</p>		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

一般区分・特別エリア区分共通
No.4(共通)

別添	なし
----	----

【公演団体名 一般社団法人漫才協会 】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。
・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
・搬入車両が構内に入らず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。
上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。
任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。
詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。
なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件

(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。							
会場の設置階の制限		条件なし		主幹引き込み電源容量				A以上
舞台設置面積		間口		m	奥行		m	
		高さ		m				
舞台設置場所		フロア対応	可		学校のステージでの対応			可
搬入間口の広さ		幅		m	高さ		m	
遮光の要否		不要		緞帳の要否			不要	
ピアノの使用について		使用しない		ピアノを使用する場合の設置位置の指定				
				ピアノを使用しない場合の移動の要否				
搬入車両(トラック等)の横づけ		横づけ要件なし		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離				m以内
搬入車両の種類		条件なし		台数		台		
搬入車両の大きさ		車幅		m	車長		m	
備考		屋外不可 スタンドマイク1本 あれば音響機材(出囃子CDなど再生)						

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報

(任意)	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。	
会場図面の提出要否		
その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)		

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ					
	ワークショップ					
本公演						

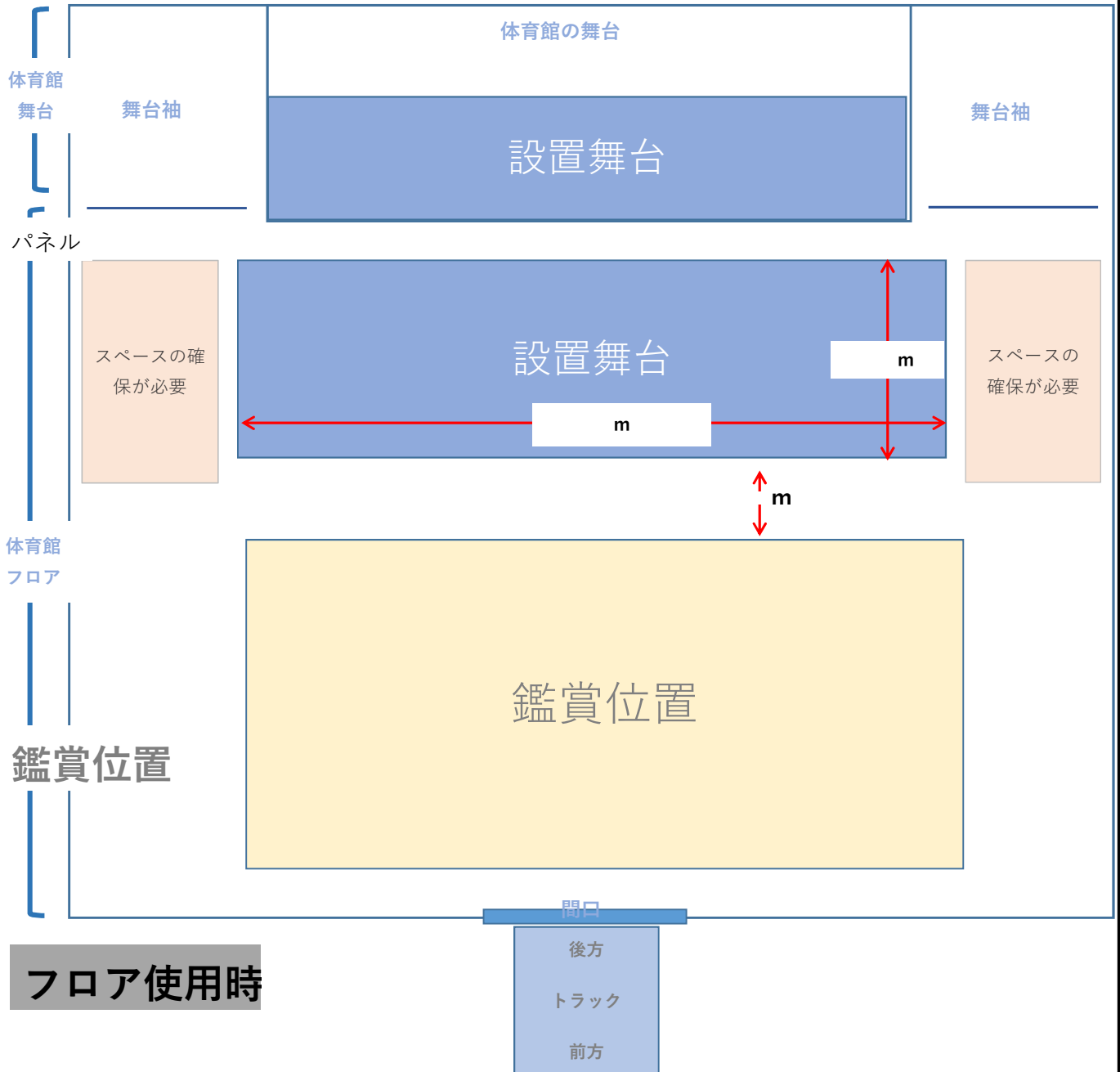
個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1		
	2		
	3		

(任意)

会場条件について最低限必由奈条件がある場合、簡易図面を記載してください。

※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。

会場簡易図面



別添

なし

【公演団体名

一般社団法人漫才協会

】

本事業への応募理由等

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

【本事業を通じて実現したいこと】

本事業は、小学校学習指導要領に示されている「主体的に話したり聞いたりして考えを深める力」の育成に資することを目的とします。その具体的な手段として、児童が漫才を通じて「聞くこと・話すこと」の力を磨き、コミュニケーション能力や集中力を自然に育むことを目指します。

漫才は相手の言葉を受け止めて応答する芸能であり、この掛け合いの体験を通じて児童は他者とのやり取りに主体的に関わる姿勢を学びます。また、笑いを共有することで心身の健康を促し、児童が日々をいきいきと過ごす力にもつながります。さらに、プロの実演と自らの体験を重ねることで「漫才の楽しさ」を実感し、友達と笑い合いながらその楽しさを分かち合う経験につながります。

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

児童が安心して取り組めるよう、導入からまとめまで段階的に進める構成とします。ワークショップでは、まずプロの実演を鑑賞して漫才の魅力を理解したうえで、全員が2人1組で台本を読み合わせ、声に出して表現する体験を行います。その中から希望者数名がボケ役に挑戦し、プロのツッコミを受けることで、掛け合いの醍醐味を実感できるようにします。

さらに、対象学年に応じた柔軟な対応を行います。低学年では読み合わせを中心に声に出す楽しさを重視し、高学年ではネタづくりの工夫や表現方法を取り入れます。こうした工夫により、発達段階に応じた学びが可能となります。

本公演では、プロの実演と児童による発表を組み合わせることで、鑑賞と体験を結びつけ、学びを一過性に終わらせない構成とします。笑いを通じて「聞く力」「話す力」を育みながら、児童がいきいきと自分を表現し、仲間と楽しさを分かち合う時間を大切にします。

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫

【学校との連絡調整について】

事業実施にあたっては、学校との事前打合せを十分に行い、対象学年・人数・会場環境を確認します。授業計画や学校行事との調整を図り、教育活動の一環として無理なく組み込めるよう配慮します。また、ワークショップや公演の趣旨と流れについては事前に資料を提供し、担任・関係教員と共有することで、児童が安心して取り組めるよう協力体制を整えます。当日は安全管理や会場の動線について学校と連携し、円滑に進行できるよう努めます。

【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

低学年には台本の読み合わせを中心に、声を出して楽しむ活動を重視します。高学年には簡単なネタづくりや即興要素を取り入れ、自分の言葉で表現する経験につなげます。発達段階に応じて内容を柔軟に調整し、すべての児童が無理なく参加できるようにします。また、特別な配慮が必要な児童については、事前に学校から情報を共有いただき、講師・スタッフが連携して対応します。

【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

公演やワークショップでの体験が一過性に終わらないよう、振り返りや授業での活用を意識します。使用した台本やワークシートを学校に提供し、国語科や学級活動での継続的な学びに役立ててもらいます。児童が日常の中で声を出す楽しさを実感し、「漫才って楽しい」「声に出すと気持ちがいい」という感覚を学校生活の中で持続できることを目指します。